

## 01. 地域分析

### —— 空き家調査 概要 ——

実施日：2021年6月27日、29日の2日間

調査員：東大の学生、教員、東急関係者、調査に協力いただいた現地の方々

調査項目：

- ①門・門扉・施錠設備についての破損状況
- ②窓の破損の有無
- ③敷地入り口～建物玄関までの通路が進入可能か
- ④ゴミ・放置物の有無・散乱しているか
- ⑤庭などの雑草の状況
- ⑥軒先・軒裏の破損状況
- ⑦売り家・貸家などの看板の有無
- ⑧近隣住民・管理人情報の有無、その内容
- ⑨日高市調査に基づく利用可能度合いのランク
- ⑩その他、郵便受けや屋根、フェンスや塀、外壁、雨戸やシャッターなどの状況

これらの項目や生活感の有無から空き家かどうかの判定を行った。



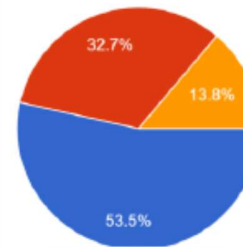
## 空き家調査結果詳細

## 01. 地域分析

\* 空き家の分布とそのランク (地区の空き家率7.28%)

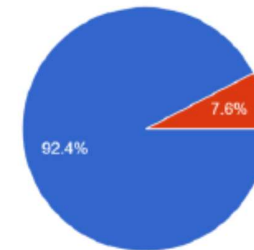
※プライバシーの観点から  
地図を非表示にしています  
m( \_ \_ )m

庭などの雑草



- 異常なし
- やや繁茂
- 著しく繁茂

ゴミ・放置物



- 異常なし
- 散乱

空き家の状況について、9つの項目から調査した。

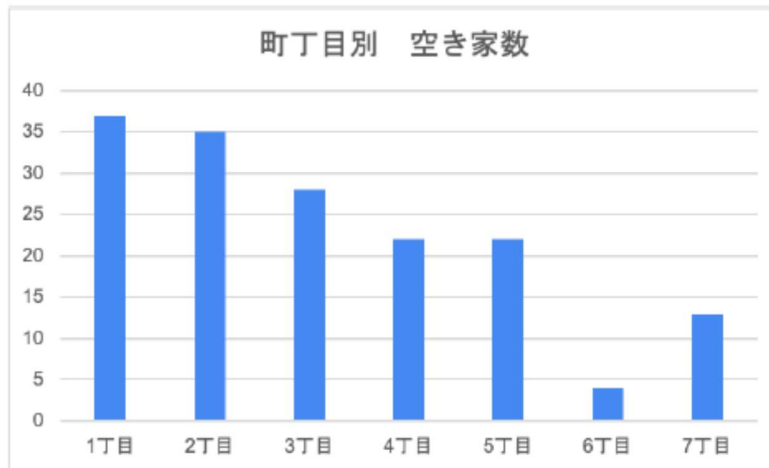
- 門や窓、通路や軒先の破損が見られる空き家は5%以内にとどまる
- 雑草の茂りや放置物が問題となっている空き家が多い(→比較的再整備に負担少ない)

これらの状況から、空き家ランクとしてはリノベなどにより再利用できる青ランクが多かった。<sup>11</sup>

# 01. 地域分析

## 空き家調査結果詳細

\* 町丁目別の空き家数（計161区画/2122区画中）  
入居開始が早かった1~5丁目と、1980年代後半に入居が開始された6,7丁目では空き家数に顕著な差が見られる。



\* 空き家の状態  
有効活用が可能な空き家が半数以上を占めているが、一部問題になる空き家も存在している。

